

## 要 旨

なぜ、中国人学習者にとって日本語の慣用句は難しいのか

— 「手」に関する慣用句を例に —

封 梅

慣用句は現在中国大学の日本語教育現場においてまだ重視されていないため、本研究は、中国人日本語学習者を対象に、身体語彙の中で多く使われている「手」を取り上げ、中国人日本語学習者にとって日本語の慣用句のどこが難しいのか、また、それを踏まえて中国大学の日本語教育現場で実行できる慣用句の教授法を研究する。

2の先行研究には慣用句の意味・用法に関する研究、中国人学習者慣用句の誤りの研究、中国人学習者にとって慣用句が難しい理由の研究と中国人学習者の慣用句指導方法の研究の四つの方向へ進んだ。中国人にとって慣用句が難しい理由の研究はまだ発見できていないため、中国人学習者の慣用句誤りの分析及び中国人学習者向けの学習法の開発に重心を置く。

3では、「手」の慣用句を例に、中国語母語話者にとって理解しやすい、少々理解しにくい、理解しにくいなどの三つの難易度で四つのカテゴリーに分類した。これに基づいて、同志社大学留学生別科上級レベルの中国語母語話者留学生20名を対象に調査を行った。中国人留学生の慣用句に対する理解力を調べる意味で、上記四つのカテゴリーごとに5個総計20個の「手」の慣用句を選び、ばらばらに並べ、その意味を自分の一番書きやすい言語で書かせた。調査の結果によって、正確率を計算し、誤答の内容を整理してから分析を行った。

4では中国人学習者向けの日本語慣用句の教授法を「手」に関する慣用句を例にして取り上げた。一つ目は例文や会話を取り上げて、その文の前後関係から慣用句の意

味を推測することによって学習者にインパクトを与えて覚えさせる指導法である。二つ目は文のうえに図やイラストなどといった視覚的な説明を加える方法である。テキストの作成に適量のイラストや絵の導入に試みた。三つ目は「手」の慣用句を例に「手」の慣用句を取り上げて体系的な整理を行った。「手」の働きから「手」の慣用句の基本的な意味を整理し、また、中国語の中で手の基本的な意味と対応できるかも確認に入れた。

最後の5では「手」の慣用句以外の慣用句には体系的な整理が必要であるかを調査して判断を下す。必要である場合、どういった整理を取るかを今後の研究に入れることになった。慣用句の現場指導上、また、教材の作成上に残った問題を指摘し、今後研究の課題にした。